

みどりの東北

発行日／平成21年10月
 発行／東北森林管理局
 秋田市中通五丁目9-16
 TEL.018(836)2192

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



木の文化を支える森づくり「平泉古事の森」がスタート (詳細は4頁で紹介)

(歴史的建造物の修復用資材の供給に寄与する「古事の森」づくりが岩手県平泉町で開催されました)

トピック

特集

「白神山地を考える旬間」

計画課

美しい森林づくり

「アカマツ資源を活用した地域振興」

南部アカマツ振興センター

(久慈地方森林組合)

我が署の隠れた名所

米代西部森林管理署

「黒滝」



植樹会へ参加した小学校4校の各代表者による
 【古事の森宣言】



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



アカマツ資源を活用した 地域振興

南部アカマツ振興センター
(久慈地方森林組合)

はじめに

久慈地域のアカマツは他地域と比較して太くて通直であるものも多く、地域品種である「侍浜松」にも見られるように目が詰んで、材が赤味・光沢がある、優良な資源であることが知られております。

本地域では、優良且つ豊富なアカマツ資源を強みとして、林業関

係者が一丸となり、アカマツ製材品の販売促進活動を進めています。今回は本地域のアカマツ振興の概要を紹介します。



「侍浜松」保護林

アカマツ振興上の課題は

これまで、アカマツは梁、桁などの建材として利用されてきましたが、現在は、外材、集成材に代替され、需要は非常に少ない状況となっています。

最近では、国産材利用の気運が高まっていますが、住宅の安全性確保、瑕疵保証および建築の短期化などにより、製材品には乾燥による寸法安定、納期の短縮化などが求められています。

アカマツ振興の取組みは

平成一八年から「南部琥珀松」の商標登録、「アカマツ販売戦略」の策定、「南部アカマツ振興センター」の設立、展示会への出展などが行われてきました。

特に同センターは製品製造、調査研究、普及啓発の三部門で形成され、産学官連携による林業の振興を図る組織として現在活動の核となっています。



センター設立の会議

アカマツ振興の方向性は

国産・天然材志向の設計士、工務店の「安心・安全な住宅を国産材で建てたい」というニーズに対し、優良な天然アカマツ材を提供すること。また「天然アカマツ、天然乾燥」、「高化粧性内装材」、「特殊材」をキーワードにし、消費者からのクレーム等に対応するため、材質の説明等、需要者からの要望に対応しながら、久慈地域アカマツ材の販売を展開することなどが挙げられます。

また、実務レベルでは、
(1) 需用者の求める製品やその

品質の情報を収集する
(2) 売込み先の絞込みと営業用の説明資料を整備する
(3) 納期や品質など注文に迅速に対応できる受注体制を確立する
などが挙げられます。



アカマツ材を利用した展示

今後の取組みは

アカマツ製材品の販売促進に必要な情報を整備し、国産・天然材志向の設計士、工務店などの需要者に対し営業、意見交換を進める一方で、地域関係者間で打ち合わせを実施し、課題の抽出と解決を繰り返ししていくことで、本活動を徐々にブラッシュアップし、地域林業の活性化を進めて行きたいと考えています。

【森のお話】
…コラム…

「森林バイオマスを賢く利用するために」
— 新たなプロジェクトの紹介 —

森林総合研究所東北支所 地域研究監

新山 馨

地球温暖化を防ぐために低炭素社会を実現することは、わが国の大きな政策目標となっています。その実現には、太陽光、地熱、風力、水力、波力、バイオマス等あらゆる新エネルギーの利用と省エネの推進が必要となります。こうした社会情勢を背景に、バイオマスの中で最も大きな蓄積量を誇る森林バイオマスの利用が注目されています。一方で、間伐手遅れの人工林の適正な管理が求められています。間伐を定期的に行い、あわせて森林バイオマスを賢く利用することが必要です。しかし、森林バイオマス利用を効率的に進めると、林地に残存するバイオマスが少なくなり、土壌の栄養分が減るなど林地への悪影響が心配されます。そこで、長期的な視点から森林バイオマスの効率的利用と林地の保全とを共存させるため、新たな研究プロジェクトを森林総合研究所・東北支所が中心に始めることになりました。ここでは新プロジェクト「森林バイオマスの強度収穫と林地保続性の共存」を紹介し、関係各位の理解とご協力をお願いしたいと思います。本課題で

は、バイオマス需要に如何にして森林生態系が応えるべきかの基礎研究の場を東北森林管理局内に試験地として確立し、これをベースとして地域社会の中でバイオマス需要と供給を適切にマッチングさせるシステムを構築したいと思っています。第三期科学技術基本計画の中で、戦略重点科学技術としてバイオマスの利用と持続的なシステムが取り上げられています。森林バイオマスの持続的な利活用は、まさにこれに合致しています。新プロジェクトは、農林水産研究基本計画（平成十九年改訂）の研究開発項目（四）バイオマスの地域循環システムの構築、に位置づけられます。森林総合研究所は既に、技術会議委託プロジェクト「地域活性化のためのバイオマス利用」において、岐阜中

山間地域を対象にバイオマス利用モデルに関する研究を平成十九、二十年に行っており、地域の中小の製材工場における残材活用の方角性を示しています。また、産総研委託プロジェクトでは、北東北三県のバイオマス利用可能量の市町村毎の推計とコストに関する数値を明らかにしています。これらの成果を、新プロジェクトに活用することが出来ると考えています。一方、全木、全幹、短幹集材といった集材タイプごとの

森林バイオマスの強度収穫と林地保続性の共存

強度収穫：伐採木の枝条等を含めて従来より多くバイオマスを林内から持ち出すこと。



(1)1) バイオマスタウン推進モデルの策定

事業化支援

(1)2) バイオマス安定供給システムの開発

検証

(2)1) 強度なバイオマス収穫を伴う利用間伐の影響評価

作成

地域の森林経営を活性化
健全性の担保

森林の保続を考慮した
森林バイオマスの
強度収穫指針（プロトタイプ）

プロジェクトの達成目標

生産性や収穫後の林地の地力や森林生態系全体への影響に関して調べたデータは少なく、様々な林地で相互に比較できるデータはありませんでした。人工林の長伐期化と今後の多様な森林施業に即した森林バイオマス利用の持続性について、全く新しい視点での研究の取り組みが必要と考えています。

- ・ 東北地域を対象としたバイオマスの需要者と森林組合や素材生産業者等の供給者をつなぐモデルを提示する。
- ・ 東北地域を対象に森林バイオマス収穫工程を既存の森林作業に組み込むシステムを提示する。
- ・ 東北森林管理局内に試験地を設定し、異なった収穫作業による林地への初期インパクトに関するデータを得る。

期待される成果とその活用

- ・ 森林バイオマス利用に積極的に取り組む市町村のバイオマスタウン構想の推進に寄与する。
- ・ 収穫コストと環境影響に配慮した森林バイオマス強度収穫指針を作成する。
- ・ 収穫強度を変えて間伐を行い立地環境に関するデータ、特に初期インパクトと短期的回復状況に関するデータを得る。

これは次期の長期的なモニタリングプロジェクトの基盤データとなる。

特集コーナー

木の文化を支える森づくり 「平泉古事の森」を設置

東北では初

指導普及課



林野庁では、国内の神社、仏閣、城郭、旧家などの歴史的木造建造物の修復に必要な樹齢二百年から四百年の大径木を育てる超長期の森づくりを通じて、地域の皆さんと日本の木の文化を支えていく活動を進める「古事の森」を展開しております。

九月二十六日（土）関係者や地元平泉町及び奥州市衣川区の小学四年生総勢約二百人が参加し、平泉古事の森設定のための植樹及び協定書締結式、提唱者である立松和平氏による講演が行われました。

協定書締結式では、地元の関係機関・団体で組織する古事の森育成協議会会長である高橋一男平泉町長と岩下秀美岩手南部森林管理署長が超長期の森づくりに向け、植樹や保育等の活動についての協定書に調印しました。高橋町長は

「この協定書調印がスタートであり、地域全体で木の文化を守る活動を行っていききたい」と挨拶、岩下署長は「皆さんと協力をしながら歴史的建造物の維持に必要な森づくりに努めたい」とそれぞれ今後の協力について述べられました。

その後植樹会場へ移動し、古久保東北森林管理局長から「苗木を植えるとともに、文化財を大切にする気持ちを育てて欲しい」と挨拶があり、ヒバやケヤキの苗木二百五十本を植樹、古事の森の提唱者である立松氏も参加し、小学生へ植樹指導を行いながら一緒に丁寧に植えた



植樹会場での古久保局長挨拶

後、参加した小学校四校の各代表者による「古事の森宣言」が行われ、植樹会が終了しました。参加した小学生達は、「将来植えた木が金色堂などに役に立ったらいいな」と思いながら植えました。「ここが虫や鳥たちが集まる森になって欲しい」など話していました。

午後からは、古事の森の提唱者である立松氏による「古事の森をつくろう」と題した講演がありました。立松氏は「日本各地には木の文化の象徴とも言えるべき木造文化財等の歴史的建造物や伝統工芸など次世代に引き継ぐべき伝統文化が多く残っており、それらを将来にわたり維持・継承していくため定期的な修復に必要な資材を安定的に供給する必要がある」と思い、林野庁へ相談し実現することが出来た。「記念すべき十箇所目が東北初となるここ平泉になり嬉しく思う」「未来を担う子供たち



未来のため一生懸命植えました

に植樹体験を通じ文化財との結びつきが出来たうえで、平泉古事の森をこれからは地元の人達が守り育てる活動が続けて欲しい」など話されました。

今回古事の森を開催した平泉は、九月二十五日に開催された世界遺産条約関係省庁連絡会議において、二〇一一年の世界遺産登録の候補に推薦することが決まったこともあり、木造文化を継承する気運の高まりも感じました。



植樹を終え参加者全員で記念写真



立松氏による講演

特集コーナー

白神山地を考える旬間 ～適正な保全管理と今後の自然再生活動のあり方～

計画課



東北森林管理局では、白神山地が世界遺産に登録される以前より、森林生態系保護地域に指定し、保全と利用のバランスをとりながら白神にふさわしい森林づくりを進めてきました。

平成五年十二月の世界遺産登録を機に、豊かなブナの森を目指し、来訪者が各地より訪れるようになりました。その一方で、昨年九月世界遺産地域内でブナの損傷が相次いで発見されるなど、利用マナーの低下が懸念されており、また、ボランティア団体等による自然再生活動が高まっている中、白神山地周辺においてもスギ人工林を広葉樹との混交林にするなど、一層の活動の充実が期待されています。

このため、九月一日から十日まで「白神山地を考える旬間」として、シンポジウムの開催や現地説明会及び合同パトロールを集中的に行いました。

一、〔秋田県〕

九月一日（火）秋田市中通のイヤタカにおいて、白神山地世界遺産地域における適正な保全管理を前提とした利用のあり方をテーマとした白神山地世界遺産地域に関するシンポジウムを開催しました。

当日は、一般市民のほかに秋田県内の白神山地世界遺産地域のボランティア巡視員や行政関係者など約百名が出席、冒頭平野計画部長よりシンポジウム開催の趣旨、白神の歴史

について説明の後、蒔田明史秋田県立大学教授から「世界遺産白神山地の価値」と題し、基調講演がありました。

蒔田教授



関係者約100名が集まったシンポジウム

授は、自らブナ林のモニタリング調査のため、年に数回白神山地世界遺産地域核心部に入っており、広大な白神山地はえも言われぬ安らぎを与えてくれる。森林の価値は多様であり、多様な価値観、多様な視線で地域や人との関わりを考えていきたいとの問題提起がありました。

その後、関係者によるパネルディスカッションが行われました。パネリストは、秋田県側のボランティア巡視員である鎌田孝一さん、青森県側のボランティア巡視員の中濱和夫さん、日本山岳会青森支部長の下山寿さん、西目屋村長の関和典さんのほか、東北地域環境研究会理事長の浅沼晟吾さん、当局平野計画部長の六名で蒔田教授をコーディネーターとして各自の活動

状況を紹介、意見交換を行いました。

意見交換では、少子化により自然の大切さを教えることが難しくなり、



会場からは活発な意見が出されました



蒔田教授による講演

とても残念に思うとの意見や、自然再生事業で単にブナの造林を行うのではなく、自生する高木広葉樹を促す方法等多様な樹種で構成される森を目指す植樹方法の紹介、更には「二一世紀は再生の時代」地域住民や保護団体も入った大きな仕組みで次世代へゆつくり繋いでいきたい等多数の意見が出されました。

二、〔青森県〕

九月七日（月）青森県鰺ヶ沢町の山村開発センターにおいて、白神山地周辺地域の自然再生活動の推進をテーマとした「白神山地周辺地域の自然再生ミニシンポジウム」を開催しました。

当日は、青森県内の世界遺産地域で活動するボランティア団体や行政・地元住民ら約百名が出席、冒頭高橋指導普及課長より当シンポジウムの趣旨説明の後、昨年白神山地周辺の国有林に点在するスギ人工林を将来的に広葉樹林に戻す「自然再生計画」を分か



牧田名誉教授による講演

りやすく説明した「自然再生マップ」について説明、引き続き「白山山地周辺地域の自然再生について」と題し、牧田 肇弘前大学名誉教授の基調講演がありました。講演では、自然再生活動の実施については、生態系の自然を重視し長く続けることが重要である事や自然再生特区の設定など必要ではないかとの問題提起がありました。

テーマに基づくパネルディスカッションも行われ、地元ボランティア巡視員であり、赤石川を守る会会長でもある中濱和夫さんが秋田県でのシンポジウムに引き続きパネラーとして参加、鱒ヶ沢町長の長谷川兼己さんや東北大学生命科学研究科教授の中静透さん、原田正春前津軽白神自然環境保全ふれあいセンター所長の計四名で牧田教授をコーディネーターとして活発な意見交換がなされました。

長谷川町長からは、ここ鱒ヶ沢町は第一次産業の町であり、森を守り、海を育む事が重要であり、自然再生生活



地元住民の参加が多く見られた会場



現地説明会の様子

動への町民の意識向上を図りたいと述べられました。中静教授からは、自然再生マップ作製に携わったが、活動を継続する中でその時々での見直しもあるのではないかと、活動を記録し活動地域の変化を検証する事も必要であるという意見があり、原田前所長からは、自然再生活動を進めるに当たり、技術指導や安全確保のために各団体等との意見交換が重要等の意見が出されました。

青森会場ではこの他に津軽白神自然環境保全ふれあいセンターのパネル展示や翌八日には自然再生マップに基づく現地説明会も実施され、参加者一同自然再生活動への理解が深まったシンポジウムとなりました。

国有林野管理課長

たか くら とし ひろ
高倉 利弘 (秋田県)



- 48・4 秋田局造林課採用
- 12・4 林野庁林政課監査官
- 14・4 東北局自然遺産保全調整官
- 18・4 東北局指導普及課長

森林整備部長

いし だ ゆう じ
石田 祐二 (富山県)



- 56・4 農林水産省入省
- 2・4 熊本局日田署長
- 13・4 九州局販売課長
- 19・4 関東局磐城署長

新任者略歴 紹介

(10月1日付)

～森の仲間の裏話 7～

へえーそうなんだ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長 青山 一郎

ブナ喰いたち



ハムシによる食害

今夏、山形のブナ林にはウエツキブナハムシが大発生しました。幼虫、成虫ともブナの葉を食害し、激害地では8月には山全体が色づき、話題になりました。早くから被害の出ている地域では、子虫の誕生前に親が食い尽くしていました。

同様にブナ林を裸にする虫としては、周期的に大発生するブナアオシャチホコが有名ですが、どちらも枯死するほどのダメージを与えない点は、ナラ枯れと決定的に違います。

先日、ハムシ被害で季節外れに葉を落とした明るいブナ林に入ると、ひらひらと白い小さい虫がそこかしこに舞い、幹にも樹皮にも同化した彼らがたくさん留まっていた。

この小さな蛾、ナナスジナミシャクも若芽に食い込むブナ喰いです。ハムシが暴れている時期を過ぎたのでしょうか。落葉のダメージは受けていないようです。同じブナの害虫でも、山を裸にする前述のハムシやブナシャチに比べ、ずっと控えめな存在にも見えますが、実はブナの木の豊凶を大きく左右する種です。

多くの生物が暮らす森で、小さな虫がたまに大発生して存在感を示すのも、森のスケールで見れば、良くあることなのかもしれませんね。



ウエツキブナハムシの幼虫(写真右)と成虫



樹皮に擬態したナナスジナミシャク(写真右)



“植生学”のススメ

津軽森林管理署 金木支署

小泊森林事務所 岸田 周

小泊森林事務所は、「津軽海峡に限りなく近い日本海側」に位置しており、本州における日本海側の最北端地域を管轄しています。冬は日本海側からの季節風をまともに受け、夏はやませの通り道になるなど気候条件の厳しいところです。

さて、当事務所管内の森林資源の状況ですが、管轄面積約5,600haのうち、スギ人工林が約15%にとどまるのに対して、ヒバやブナ等の広葉樹を中心とした天然生林は約70%を占めており、手つかずの森林が多く残っていることが特徴だといえます。

造林請負事業の監督業務や収穫調査をはじめ、スギの人工造林地に目が行きがちですが、今回は天然林にスポットを当ててみたいと思います。

そもそも、私が天然林に興味を持つきっかけは、海岸線から山の斜面に広がる広葉樹林でした。現場に行く際、官用車からよく眺める景色なのですが、樹種など詳しいことはほとんどわからない状況でした。

そこで、まず初めに、以前から気になっていた海岸線沿いに生育する広葉樹の低木一斉林を観察したところ、「カシワ」であることが判明しました。関西出身の私にとっては、「カシワ」は里山林で高木林を形成している印象があったので、新鮮な驚きがありました。また、樹高が2～3メートルに押さえられている姿は、冬の季節風の強さを物語っているように感じました。

次に、小泊における「カシワ」の分布状況が知りたくなったので、WEB等で調べたところ、地域毎に詳細な「植生図」を提供しているサイトを見つけました。

みなさんは「植生図」というものをご存じでしょうか？「植生図」は、構成単位を植物種ではなく植物の組み合わせである植物群落として捉えて、植物の分布パターンを示したものです。もちろん「カシワ」だけではなく、主要樹種の分布状況が確認できるようになっ

ています。

この植生図によって、施業実施計画図では天然林の広葉樹林として同様に区分されている小班でも、地形や標高によって、明らかに異なる植生パターンをみることができたのです。加えて、管内全体の植物の分布状況を把握することが可能になり、海岸



小泊地区における植生図（一部抜粋）

から山地にかけて、一定の植生パターン（大まかに分けて3つ）を発見できました。

【海岸断崖地】海岸性のススキ・キク・ヨモギ等が優占する高茎草原（黄色部分）

【海岸風衝地】イタヤカエデ・カシワ等が優占する低木林（薄緑部分）

【日本海側山地】ブナを中心とした広葉樹林（薄黄色部分）及びヒノキアスナロ（ヒバ）とブナの混交林（深緑部分）

今後、合自然的な施業（針広混交林・複層林への移行）の導入など多様な森林づくりを進めていく上では、地域特有の自然植生を把握することが重要であり、また、開かれた国民の森林として、森林教室や各種イベントを実施する際には、地域の方々に地域特有の植生分布状況を説明して、国有林が森林の持つ公益的機能を維持・管理していることをPRしていく必要があると思います。

そのためには、人工造林地に限らず天然林についても洞察を深めることが非常に有意義なことでは



小泊から竜飛崎に向けた海岸線

ないかと思い、この度投稿しました。ただ、まだ私も森林官1年目なので、まずは森林官として基本的な業務をこなしていけるよう日々邁進していきたいと思っています。



保護樹帯に残るヒバの巨木



着任挨拶

「世代をこえた

国民の期待に応える」

東北森林管理局長 古久保 英嗣

東北地方の山々は美しい秋を迎え、また静かに冬の準備を始めていますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

九月一日付で新しく森林管理局長に参りました古久保です。

着任に当たって、簡単な自己紹介を兼ねて御挨拶させていただきますと思います。

私は、森林が少ない大阪の生まれ育ちですが、大学時代に木材について学んだのがきっかけで、昭和五十五年に林野庁に入りました。

当時は、二度にわたる石油ショックの頃で、有限地下資源の枯渇による人類の危機が強く叫ばれていました。他方、私が勉強した木材は、大気中の二酸化炭素と太陽の光で限りなく再生され得る天然資源ですので、これをどんどん利用

することは人類の将来のために非常に大切なことのように思うのですが、いろいろな用途で金属製品や石油製品に取って代わられてしまいました。また、戦後盛んに植られた造林地の手入れも滞り始めていました。

このようなことから、木材資源を生かすための専門的職業につきたいと考えていたところ、林野庁が木材分野の専門行政職を初めて採用することになり、これに応募して入庁することになりました。

その後、東京の本庁のほか、地方では、山形県、秋田県、和歌山県、北海道に勤務しましたし、米国でも一年半にわたって森林経営の実情や理論を学ぶ機会がありました。

これらの期間を通じて、国内の

森林整備の促進や木材産業の高度化のための政策を考えたり、一定の区域について具体的な森林整備の計画や実行を担当したり、さらには国内森林関連産業保護のための貿易交渉や森林病虫害防除のための制度作りなど、さまざまな業務を担当してきました。いずれも次の世代につながるやりがいのある仕事だったと考えています。

今回、勤務させていただく東北地方は、役人生活駆け出しの二年目から四年目まで、現場業務や地方での暮らしなどを一から教わった思い出の地です。また、森林に恵まれた地方ですので、林政に関する話題も多く、林務行政や森林・林業に関わる多くの方々と一緒に、様々な仕事をさせていただいた経験は、私の貴重な財産となっています。

東北森林管理局の管理する国有林は百六十五万ヘクタールに及んでおり、この面積は、日本の全森林の十五分の一に当たります。その内訳も、我が国を代表する秋田スギ、青森ヒバの美林、世界遺産白神山地、旺盛な生育遂上にある一億立方メートル近い人工林資源など、国民にとっても地域にとっても、かけがえのない価値を有して

います。

これらの森林を適切に管理し、今の世代の期待にこたえらるるとともに、多様で健全な、より一層豊かな森林として、子供たちや孫たちの世代に引き継いでいくことが、国民の皆様からいただいた東北森林管理局の使命、役割です。

これから、森林管理局の全職員とともに、このような使命、役割をよりよく果たし、地域や全国の皆様の御期待に沿えるよう、全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

また、併せてお願いしたいのが、地域の皆様の御支援、御協力です。

広大で多様な国有林をよりよく守り育てていくためには、私共職員だけでは気が付かないこと、行き届かないことがあります。歴史的にも、地域の皆様の御協力によって国有林がよりよく守り育てられてきました。

どうか、様々な声をお聞かせいただくとともに、森づくりの活動に積極的に参加していただくよう、よろしく申し上げます。

離任挨拶

～お世話になりました～

前局長 山崎 信介



このたび、九月一日付けで北海道森林管理局長に異動することになりました。

昨年の七月に東北森林管理局にお世話になり、以来一年一か月と大変短い期間ではありましたが、皆様からご支援とご協力をいただきまして、若干の心残りはあるものの、何とか職責を果たすことができましたのではないかと考えております。心より感謝と御礼を申し上げます。

離任に当たって、一年一か月前を振り返ってみますと、私自身にとって三年弱ぶりの国有林勤務であり、更には岩手・宮城内陸地震が発生して一ヶ月後ということもあって、ずいぶんと肩に力が入った状態での着任であったという記憶があります。そのことは、本誌

に掲載された「着任挨拶」の内容にも如実に表れていると思います。今、読み直してみますと、その熱い思いと裏腹に、残念ながらそれらのほとんどを具体化することができず、恥ずかしい限りです。

そうした中で、林野庁や他局からの応援も得る中で、職員の皆様の昼夜を問わないご対応により、内陸地震に関わる災害復旧事業に一定の道筋をつけることができたことは、私自身にとっても大変意義深い経験となりました。

今後も長期間にわたったの対応が求められ、関係者の皆様のご苦勞も尽きることはないと思われますので、任を離れる私が軽々しく感慨を述べることは避けるべきかもしれません。被災地に何度となく足を運び、地元の市長さんと

の熱い意見交換もさせていただいた関係者の一員としては、率直な思いとして、一定の達成感と安堵感を感じているところです。

一方で、職員の皆様には引き続きのご対応をお願いせざるを得ないことは大変心苦しいかぎりではございますが、被災された地域の全ての皆様に安全で安心な生活を一日も早く取り戻していただくべく、職員一丸となつてご尽力いただくようよろしくお願いいたします。そうした対応を着実に進めることが、現在国民の皆様が東北森林管理局に期待されていることであり、国有林野事業の存在意義を示すことにもつながるものであると思います。まさに我々の真価が問われているとの緊張感をもって、真摯な対応を引き続きお願いいたします。

在任期間が短かったこともあって、いろいろな方から、「局長は地震対応以外は仕事はしなかったのではないか。」と冗談とも本気ともとれる、厳しいご指摘を受けることが何度もありました。確かに、被災地に出かける機会が多かったことは事実であります。地震対応以外に何もなかったというのは全くの誤解であります。当然のこ

とながら、悲喜こももも、いろいろな出来事がありました。しかしながら、それらの事案発生時には、職員や関係者の皆様の絶大なご協力を得て、事案に真正面から取り組むことができたことは、結果の如何にかかわらず、私自身にとっても大きな、そして貴重な経験となりました。

新任地においても、そうした経験を糧にがんばっていきたいと考えておりますので、引き続きのご指導とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

最後に、皆様のご支援ご協力に重ねて御礼申し上げますとともに、皆様の益々のご健勝とご多幸を、加えて、東北森林管理局のご発展をお祈り申し上げ、お別れの挨拶といたします。



職員の拍手で見送られる山崎前局長

我が署の 隠れた名所

米代西部森林管理署

くろ たき 「黒 滝」



平常時の黒滝



増水時の黒滝

交通アクセス

・国道101号から春秋林道を二ツ森方面へ車で30分、途中真瀬岳・黒滝の看板から左折して10分ほど。
駐車スペースは2台程度。
(天気の悪い日は見落とす恐れがあります。)

(見所の概要)

世界遺産白神山地を望む真瀬^{ま せ だけ}岳へと向かう途中、黒い岩肌をあらわにした滝が現れます。周りを緑の木々に囲まれて薄暗く、天気の悪い日には見つけるのが難しそうな滝ですが、晴れた日には周りの木々の緑色と岩肌の黒さ、水の白いしぶきが絶妙なバランスを現します。

最近のトレッキングのブームも手伝ってか、世界遺産を見渡せる二ツ森・真瀬岳を目指して県外からたくさんの観光客が来ますが、この真瀬溪流風景林の中にある黒滝は知る人ぞ知る名所となっています。

名前の由来を白神山地に詳しい白神ネイチャー協会に伺ったところ「春先や大雨以外は、水がつつわり落ちる程度のため、玄武岩の黒い岩肌が光って見えるため。」とのこと。

今年は幸いにも？大雨に見舞われ水量の豊富な時の滝の写真が手に入りましたので、水量の違いで色が違うところを見比べて見て下さい。「えがったら本物どご見に来てけれ〜。」



お問い合わせ先

〒016-0815 秋田県能代御指南町3-45

電話番号：050-3160-5826

FAX：0185-54-5514